

教育研究業績書

(西暦)

2014年 8月 # 日

すがわら じゅん

氏名 菅原 純 ⑩

教育上の能力に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例	2009年4月より現在	東京外国語大学開講の「初級現代ウイグル語」(通常授業ならびに社会人対象のオープンアカデミー)では、独自教材を使用し、パワーポイント、WEBを利用したきめ細かな指導に努めている。毎学期社会人聴講生を受け入れ、平易かつ個別進度に応じた指導に留意している。
2 作成した教科書、教材	2007年8月	東京外国語大学、現代ウイグル語言語研修教材『Eling, Eling!』(教科書)、『現代ウイグル語接辞索引』(副教材)、『現代ウイグル語語彙集』(副教材)、ならびに音声教材(マルチメディアCD-ROM)。なお当教材は日本ならびにドイツ(ベルリン自由大学など)で継続的に使用されている。
3 実務の経験を有する者についての特記事項	1993年8月より1995年8月まで 1998年2月より現在 2000年10月より現在	中華人民共和国新疆ウイグル自治区に留学し、主として現代ウイグル語ならびに古典文章語(チャガタイ語)を習得した。またこの間に所属機関(新疆ウイグル自治区社会科学院)にて公開の日本語講座講師を務めた(1995年1月～6月)。民間財団助成金、科学研究費補助金の研究協力者、研究代表者として、主として中央アジア地域の歴史文化に係る各種調査を多数実施している。現在まで調査経験を有する国家・地方は中国(新疆ウイグル自治区)、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギス(以上実地調査)、連合王国、フランス、スウェーデン、ドイツ、ロシア、オーストラリア(以上資料調査)など。 中央アジアの歴史と文化に関する生涯学習講座、公開文化講演を行っている(東京外国語大学、国際交流基金アジアセンター、高等教育情報化推進協議会、渋谷区、海老名市、朝日カルチャーセンター、中央大学、筑波大学など)。
4 その他	1998年10月より現在	国際的規模の学術会議で多数報告を行うとともに(詳細省略)、近年はオーガナイザーとして国内外での国際学術会議の組織・運営を複数回行っている。主たる組織会議は"International Workshop on Xinjiang Historical Sources"(箱根、2004年12月)、"Studies on the Mazar Cultures of the Silkroad"(Urumchi, 2008年8月)、"Kashgar Revisited. Commemorating the 10th Anniversary of the Death of Ambassador Gunnar Jarring"(Copenhagen, 2012年5月)。

職務上の実績に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 教諭(社会科)	1989年 3月	中学校教諭1級(免許番号:平1中1普第26804号)、高等学校教諭2級(免許番号:平1高2普第26804号)、東京都教育委員会。※免許状更新講習未受講
2 特許等		なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項	2005年10月より現在まで 2002年2月から2008月まで	現代ウイグル語通訳・翻訳者として法廷通訳(東京地方裁判所)、報道翻訳(NHK、テレビ朝日、日本テレビ、東京放送等)などを務める。 財団法人国際情報化協力センター主任研究員(のち特殊法人情報処理振興事業協会嘱託研究員)として経済産業省委託「多言語情報セキュリティシステム構築事業」のコーディネイト業務に従事するとともに、同事業のシステム運用タスクフォースのメンバーとして、アジア複数言語の情報化事情調査、ならびに電子辞書構築などを行った。
4 その他	年 月	なし

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1. 『中国におけるアラビア文字文化の諸相』	共著	2003 年 3 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	中国で現在使用されているアラビア文字文化に注目した討論集。町田和彦、菅原純、黒岩高編。菅原純「岐路に立つ文字文化—トルコ系「少数民族」民族文字文化の現状と課題」(pp. 69-101)。
2. 『周縁アラビア文字文化の世界—規範と拡張—』	共著	2004 年 3 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	町田和彦、菅原純、黒岩高編。菅原純「現代ウイグル語の文字について—「エリブベ」のヴァリエーションにみる「民族」のかたち—」(pp. 1-20)
3. 『周縁アラビア文字文化の世界—規範と拡張②—』	共著	2005 年 3 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	町田和彦、菅原純、黒岩高編。編集、序文のみ。
4. 『周縁アラビア文字文化の世界—規範と拡張③—』	共著	2006 年 3 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	町田和彦、菅原純、黒岩高編。編集、序文のみ。
5. 『新疆およびフェルガナのマザール文書(影印) 1』	共著	2006 年 12 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	日本語、英語、ウイグル語、ウズベク語の4言語による資料集。河原弥生との共著。菅原純「マザール文書の研究へ向けて」(pp. 1-4; 13-18; 27-32; 52-58) ; 「新疆のマザール文書」(pp. 5-6; 19-20; 33-34; 48-50)
6. 『2007年夏期言語研修「現代ウイグル語」テキスト É ling, Éling !』	共著	2007 年 8 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	アイシマ・ミルスルタンとの共著。語学学習教材につき、明瞭な執筆分担なし。
7. 『2007年夏期言語研修副教材 現代ウイグル語接辞索引』	共著	2007 年 8 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	アイシマ・ミルスルタンとの共著。語学学習教材につき、明瞭な執筆分担なし。
8. 『2007年夏期言語研修副教材 現代ウイグル語語彙集(附日本語-現代ウイグル語索引)』	単著	2007 年 9 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	現代ウイグル語語彙16000余を収録した語学教材語彙集。533p.
9. 『新疆およびフェルガナのマザール文書(影印)2』	共著	2007 年 12 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	日本語、英語、ウイグル語、ウズベク語の4言語による資料集。アブリズ・オルホンとの共著。全編共同執筆の形をとり、明瞭な分担執筆の区分なし。
10. 『現代ウイグル語小辞典』	単著	2009 年 2 月	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	現代ウイグル語語彙16000余を収録し、文法記述、日本語見出し索引21000語を収録した双方向辞書。742p.
11. <i>Studies on Xinjiang Historical Sources in 17-20th Centuries</i>	共著	2010 年 3 月	東洋文庫	James Millward, 新免康との共編。2004年12月に箱根で開催された新疆史料に関する国際ワークショップの成果論集。Jun Sugawara, "Tradition and Adoption: Elements and Composition of Land-related Contractual Documents in Provincial Xinjiang (1884-1955)" (pp. 120-139)
(学術論文)				
1. 「クーチャー・ホージャの『聖戦』とムスリム諸勢力(1864-65)」	単著	1996 年 3 月	『内陸アジア史研究』第11号、内陸アジア史学会、pp. 17-40.	1864年新疆で勃発したイスラーム教徒反乱の中で、最大の勢力であったクーチャー・ホージャ政権の西方遠征活動の経過を分析した論稿。
2. 「『北京のモリソン』と新疆：モリソン文書中の新疆関連資料について」	単著	1998 年 3 月	『東洋文庫書報』第30号 東洋文庫、22-44頁。	1910年にG.E. モリソンが敢行した新疆旅行の概要を明らかにすると共に、現在豪州シドニー市のミッチェル図書館に所蔵される「モリソン文書」中の新疆関連資料の全貌を紹介
3. 「新疆・ウイグル人の職業別祈祷ハンドブック『リサラ』」	単著	1998 年 3 月	『内陸アジア史研究』第13号、内陸アジア史学会、71-84頁。	チャガタイ・トルコ語写本時代に遡りうるリサラを歴史的・書誌学的に検討し、西トルキスタン(ウズベキスタンなど)と共通する伝統的の文字文化を今に伝える希有の文献と結論した。
4. 「創出される『ウイグル民族文化』：『ウイグル古典文学』の復興と墓廟の『発見』」	単著	1999 年 3 月	『アジア遊学』第一号(『日中文化研究』第15号) 勉誠出版。	カシュガル所在の2座の著名墓廟が文革終息後の1980年代に「ウイグル古典文学」の復興と文化偉人の顕彰活動の中から「発見」され「認定」されたプロセスと、その根拠となった文書史料を検討。
5. 「中国・新疆ウイグル自治区における文字と印刷・出版文化の歴史と現状—ウイグル語の事例を中心に—」	単著	2001 年 3 月	町田和彦編『アジアの文字と出版・印刷文化及びその歴史に関する調査・研究—デジタル化移行の基礎として—』科学研究費補助金(基盤研究A:海外学術調査、1999-2000年度)研究成果報告書(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)、pp. 117-154.	漢語と並んで当地域の公用語であるウイグル語に焦点を当て、前半でチャガタイ語写本時代から今日のデジタル化に至る当地域における文字と印刷・出版文化の歴史背景と現状を検討

6. 「現代ウイグル語とコンピュータ —2001年夏の状況と展望」	単著	2002	年	3	月	『イスラム世界』第58号社団法人日本イスラム協会、pp. 93-110	現代ウイグル語のコンピュータ処理上の問題点、行政の取り組み、出版業界における情報化状況、ソフトウェア開発状況、インターネットにおける現代ウイグル語の利用状況等を検討
7. 「カーシュガル・ホージャ家アーファーク等の活動の一端—ヤーリング・コレクションProv. 219について—」	共著	2002	年	12	月	『東洋史研究』61-3 京都大学・東洋史研究会、pp. 33-63	新免康との共著。スウェーデン、ルンド大学図書館に所蔵される巻物状の写本Prov. 219に関する史料研究。18-19世紀におけるカーシュガル・ホージャ家の活動の特徴的な断面を直接的に反映する史料としての価値を論じた
8. "Morrisonning Shinjanggha alaqidar khatiriliri haqqida"	単著	2003	年	1	月	Shinjang tazkirichiliki . 2003-yil, 1-san, pp.47-51.	※「『北京のモリソン』と新疆：モリソン文書中の新疆関連資料について」（1998）の現代ウイグル語訳
9. "Uyghurlarning huner-kesip risaliliri"	単著	2004	年	1	月	Miras .2004-yil, 1-san, pp.1-7.	※「新疆・ウイグル人の職業別祈禱ハンドブック『リサラ』」（1998）の現代ウイグル語訳
10. "Уйғурлар ва Япония Империяси"	単著	2006	年	3	月	Камалов, А. (ред.) Уй ғуроведение в Казахстане: Традиция и Новация . Алматы: Наш Мир, pp.106-113	1930年代の「東トルキスタン・イスラーム共和国」崩壊後のウイグル人亡命者と日本政府とのかわり、外交プロセスを外交史料から紹介し、当時日本が同地域の政治状況に一定の関与を行っていた事実を明らかにした。
11. 「ドイツ連邦共和国所蔵の新疆史料について—マルティン・ハルトマン収集写本と関連資料—」	単著	2007	年	3	月	新免康編『中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究』（平成15年度～18年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究A(1)・研究成果報告書）、pp.53-70.	現在ハレ大学ならびにベルリン国立図書館に所蔵されるハルトマン・コレクションの全容の紹介を通じて等閑に付された「絶学」であるドイツの新疆研究の再評価を行った。
12. "Shinjang we ärghanida tepilghan mazar höjjätiliri"	単著	2007	年	7	月	Bulaq 2007-yil, 3-san. pp.33-47.	※『新疆およびフェルガナのマザール文書（影印）1』（2006）の現代ウイグル語解題部分の転載。
13. 「圣地烏帕爾-依据麻扎文书的历史探讨」	単著	2009	年	7	月	『西域研究』2009年2期、pp. 83-92.	中国新疆カーシュガル西方のイスラーム聖地オバルに関する新発見のワクフ関連文書7点に関する研究。各聖者廟のワクフ財の内容、管理機構を明らかにするとともに、カーシュガル市との社会・経済的結びつきを指摘した。
14. "Islamic Legal Order in the Northwestern Frontier: Property and Waqf Litigation of a Sufi Family in Kāshghar(1841-1936)"	単著	2012	年	9	月	Zsombor Rajkai and Ildikó Bellér-Hann(eds.), <i>Frontiers and Boundaries: Encounters on China's margins</i> . Wiesbaden: Harrasowitz, 2012. (in Press)	カシュガルで発見された「家族文書」他の文書史料に依拠し、19世紀後葉から20世紀中葉にいたるイスラーム宗教指導者の家族史の再構築を試み、そこから新疆省制下の住民のイスラーム法に全面的に依拠していた法秩序の実態を指摘した。
(その他)							
01. 「殉教者の国ホタン」	単著	2001	年	3	月	『通信』第101号（東京外国語大学アジア・アフリカ言語	
02. （座談会）「記憶と語り で伝える文化」	共著	2002	年	5	月	『季刊本とコンピュータ』2002年春号、pp. 140-143.	小杉泰、松枝到との対談。
03. （書評）「キム・ホドン著『中国の聖戦—中国領中央アジアにおけるムスリム反乱と国家（1864-1877）』」	単著	2004	年	9	月	『東洋学報』第86巻 第2号、京都大学東洋史研究会、	
04. 「翻弄された文字文化—現代ウイグル語の黄昏」	単著	2005	年	1	月	『アジア研ワールド・トレンド』2005年1号（アジア経済研究所）、12-15頁。	
05. 「ウイグル人と大日本帝国」	単著	2005	年	1	月	『アジア研ワールド・トレンド』2005年1号、アジア経済研	
06. （学会動向）「国際学術会議『中国・中央アジア間におけるウイグル人の位置づけ』」	単著	2005	年	3	月	『イスラム世界』64号、社団法人日本イスラム協会、pp. 79-90.	
07. 「国際ワークショップ「18-20世紀新疆史関連史料の諸相」」	共著	2005	年	3	月	『通信』第113号、東京外国語大学アジア・アフリカ言語	
08. （項目執筆）「ウイグル語」、「紙」、「茶」、「チャイハネ」、「祭り（新疆）」、「リサラ」、「支配者の言語（新疆）」、「文字（新疆）」	単著	2005	年	4	月	小松久男他編『中央ユーラシアを知る事典』、平凡社、p. 72; 140; 188-190; 333-335; 480-483; 504-506.	
09. （フォトエッセイ）「『ディスコ』にいこう！」	単著	2005	年	8	月	『アジア研ワールド・トレンド』2005年8号、アジア経済研	
10. （書評）“Forbes, A.D.W., <i>Warlords and Muslims in Chinese Central Asia: A Political History of Republican Sinkiang 1911-1949</i> ”	単著	2006	年	3	月	Dudoignon, S.A., and Komatsu, H. (eds.), <i>Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (18th-20th Centuries): A Selective and Critical Bibliography of Works Published between 1985 and 2000. Part 2.</i> (Tokyo: The Toyo Bunko) p.187.	
11. （書評）“Millward, James A., <i>Beyond the Pass: Economy, Ethnicity, and Empire in Qing Central Asia, 1759-1864</i> ”	単著	2006	年	3	月	Dudoignon, S.A., and Komatsu, H. (eds.), <i>Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (18th-20th Centuries): A Selective and Critical Bibliography of Works Published between 1985 and 2000. Part 2.</i> (Tokyo: The Toyo Bunko) ~ 199	
12. （学界動向）"International Workshop on Xinjiang Historical Sources"	共著	2006	年	9	月	<i>Central Eurasian Studies Review</i> , volume 5, Number 1, pp. 58-60.	新免康、James A. Millwardとの共
13. （学界動向）「第7回米国中央ユーラシア学会（CESS）年次大会」	単著	2007	年	3	月	『イスラム世界』68号、社団法人日本イスラム協会、pp. 74-82	

14. (調査報告)「カシュガル地方における聖地調査」	単著	2007	年	3	月	澤田稔編『中央アジアのイスラーム聖地—フェルガナ盆地とカシュガル地方—』(シルクロード学研究 vol.28) 奈良：なら・シルクロード博記念国際交流財団/シルクロード学研究センター、pp. 19-34.	
15. (調査報告)「カシュガル地方における聖地伝承」	単著	2007	年	3	月	澤田稔編『中央アジアのイスラーム聖地—フェルガナ盆地とカシュガル地方—』(シルクロード学研究 vol.28) 奈良：なら・シルクロード博記念国際交流財団/シルクロード学研究センター、pp. 67-78.	
16. (書評)「ティムール・ダダバエフ著『マハッラの実像—中央アジア社会の伝統と変容』」	単著	2007	年	11	月	『イスラーム世界』69号、社団法人日本イスラーム協会、pp. 68-82.	
17. (項目執筆)「新ウイグル語」；「中国・新疆ウイグル自治区(東トルキスタン)」	単著	2008	年	8	月	小杉泰、林佳世子、東長靖編『イスラーム世界研究マニユアル』名古屋：名古屋大学出版会、p. 54；527-528.	
18. (座談会)「『伝統文書』をとおし、人類共存への道を探る」	共著	2009	年	10	月	『JOINT [ジョイント]』No. 2、トヨタ財団、pp. 5-11.	伊東利勝、加藤広樹、松原正毅との対談。
19. (項目執筆)「アラビア文字 ウイグル語」	単著	2009	年	12	月	町田和彦編『図説 世界の文字とことば』(ふくろうの本) 東京：河出書房新社、pp. 74-75.	
20. (読書案内)「『世界史』における『新疆』と『ウイグル人』」	単著	2010	年	2	月	『歴史と地理 世界史の研究』2010年2月号、山川出版社、pp. 37-40.	
21. (新刊紹介) Dautcher, Jay, <i>Down a Narrow Road: Identity and Masculinity in a Uyghur Community in Xinjiang China.</i> (Harvard East Asian Monographs 312). Cambridge(Mass.) and London: Harvard University Press, 2009.	単著	2010	年	3	月	『イスラーム地域研究ジャーナル』vol.2(2010) 早稲田大学イスラーム地域研究機構、pp. 97-98	
22. (Book Review) Ildikó Bellér-Hann, <i>Community Matters in Xinjiang, 1880-1949</i>	単著	2010	年	7	月	<i>The International Journal of Asian Studies</i> , volume 7, issue 02 Cambridge University Press, pp. 228-231.	
23. (学界動向)「『歴史的な中国新疆と中亞』国際学会研究会参加報告」	共著	2011	年	3	月	『中央アジア学会報』第7号、日本中央アジア学会、	小沼孝博との共著
24. (項目執筆)「試練に立つことば」、「現代ウイグル文学における『過去の記憶』」、「新疆『イスラーム法廷文書』の『出現』」、「葡萄棚の下のバラカ」	単著	2012	年	8	月	中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』、明石書店、p. 76-80；86-90；147-149；263-267.	
25. (項目執筆) アッバソフ (Abdukérim Abbasof), アブドゥハリク・ウイグル (Abduxaliq Uyghur Abdurahman oghli), アブドゥラフマン ('Abd al-Rahman b. Habīb Allāh), アブドゥレヒム・オトクウル (Abdurechim Ötkür) など合計58項目	単著	2013	年	12	月	『岩波世界人名大辞典』、岩波書店	